

煌け! 登美北

平成28年2月29日(月)
奈良市立登美ヶ丘北中学校
生徒指導だより
文責：三間瀬 充宏

折々の言葉

放課後、自分の机に戻ると1枚の紙が貼られていました。そこには中登美ヶ丘〇丁目〇〇さんよりTEL、見たときは何か生徒が迷惑をかけたのかと立場(生徒指導主任)がら思ってしまいましたが、内容はまったくの逆、「側溝に蓋が落ちていたのを通りがかった中学生が元に戻してくれて助かりました」とのお礼の言葉でした(後で5名の2年生男子と分かりました)。疑った自分に反省するとともに、心があたたかくなりました。

今、生徒会では「あったか言葉」の取り組みを行っています。2月の全校朝会ではみなさんが寄せてくれた「あったか言葉」の紹介がありましたから、みなさんも覚えていますよね。これは、朝日新聞が中高生に募集した『励まされたことば、やさしい気持ちになれたことば、忘れられないことば……。あなたの人生の折々で、心に響いた「ことば」』にも重なります。

一つの言葉でけんかして 一つの言葉で仲直り
一つの言葉で頭が下がり 一つの言葉で心が痛む
一つの言葉で楽しく笑い 一つの言葉で泣かされる
一つの言葉はそれぞれに 一つの心をもっている
きれいな言葉はきれいな心 優しい言葉は優しい心
一つの言葉を大切に 一つの言葉を美しく

作者不詳

言葉には不思議な力がありますね。



天声人語

クラスメートやメル友だけが友達ではない。「言葉」を友人に持とう」と言ったのは寺山修司だった。「言葉の肩をたたくことはできないし、言葉と握手することもできない。だが、言葉にも言いようのない、旧友のなつかしさがあるものである」と▼小欄左上の「折々のことば」にちなみ、本社などが、大切にしている言葉とそのエピソードを中学・高校生に募ったら、1万6千超が届いた。数千と踏んでいた担当者は、若い世代と言葉との熱い「友情」に驚いたそうだ▼名言や有名人の言葉ばかりではない。日常で出会った言葉が目立ち、優秀作が21日の紙面で紹介された。その一つ「暑くもないし、寒くもないし、ちょうどいい気温だから春かなあ」は中3の須志田千尋さんが寄せた▼認知症の祖母の言葉という。本当は秋なのだが、祖母は分からない。でも肌で季節を感じている祖母はすてきた、と彼女は思う。人の存在の深みから届いたような言葉と響き合うその感性もすてきである▼掲載外の言葉もいろいろ。「花は咲くときにはがんばらない。ゆるめるだけ」(中3)は担任からの誕生日カードに書かれていた。「お前、一年前の悩みを言える?」(中2)は塾の先生。人は成長する。今の悩みはささいなことだと。応募の一枚一枚をめぐりながら、時を忘れた▼即効薬のように力をくれる言葉がある。浸みた雨が泉となつて湧くように、時間をかけて心に届く言葉もある。どこか人との出会いに似ている。言葉を友人に持ちたい。

2016・1・27

ルーティン(毎日の行動)

みなさんは朝起きて家出るまでに何をしますか?顔を洗う→トイレに行く→着替える→…など決まった段取りがあると思います。流行語の候補にも選ばれた「ルーティン」という言葉、ラグビーの五郎丸歩選手の動作を思い浮かべる人も多いことでしょう。何かを達成し、成功するためにしなければいけない行為、野球のイチロー選手のバットを立てて、肩袖を持ち上げる動きもそうです。これはみなさんの生活の中でもできることではないでしょうか。充実した毎日を送るために自分のだけのルーティンをもってみませんか。(月刊生徒指導2月号参考)